

「平戸市未来創造羅針盤」を旗印に 市民総力で躍動する平戸市づくり！



平戸市長 黒田 成彦

昭和58年 3月 参議院議員下条進一郎氏秘書勤務
昭和60年11月 衆議院議員金子原二郎氏秘書勤務
平成14年 1月 県議会議員補欠選挙初当選
平成15年 4月 県議会議員選挙再選
平成19年 4月 県議会議員選挙3選
平成21年10月 平戸市長当選
平成21年11月 平戸市長就任（1期目）
平成25年11月 平戸市長就任（2期目）
平成29年11月 平戸市長就任（3期目）

次のステージは「プレミアムな平戸」

私は、昨年10月15日に告示されました市長選挙におきまして、三期目の当選をさせていただくことができました。結果として二期連続の「無投票再選」ということになりましたが、これはこれまで二期8年間における市民各位のご理解ご支援、市職員各位の弛まぬ努力による市政執行の実績が評価された現われであり、この勢いをもってさらに「ふるさと平戸の活性化を実現してほしい」という幅広い期待と信任であろうと思っています。改めて、身の引き締まる思いと責任の重さを痛感している次第です。

さて、今回の市長選挙に向けた活動の中で私は、「プレミアムな平戸へ進化を続けよう！」と呼びかけましたが、この意味するところは、私たちは決して現状に慢心することなく、さらなる「次のステージ」に向かって努力を惜しまず精進していこうというスロー

ガンです。

そこで私が描く「次のステージ」とは、これまでの8年間で市民の皆様との協働事業による「ホップ・ステップ」の段階だとすれば、三期目ははいよいよこれらの実績に弾みをつけた「ジャンプ」として、平戸市の魅力や可能性を評価し、私たちの取組みに賛同してくださる市外の理解者・協力者との連携を今後の課題解決に結び付けていくことを意味しています。



東京・恵比寿三越「平戸マルシェ」は好評につき契約延長で売り上げアップ！

すでに首都圏や関西圏、福岡経済圏などの都市部において、平戸産の商品を取り扱ってくださる事業所は53店舗にも増えていますし、それぞれ売り上げ実績を伸ばしていることから、益々全国の平戸ファンは増加傾向にあると言ってもいいと思います。

また観光分野においても、一昨年は熊本地震による団体客の大規模なキャンセルに加え、各ホテルや宿泊施設の経営者の交代や建物そのものの改装およびリニューアルなどで一旦は落ち込みましたが、その後、見事なV字回復を成し遂げ、現在では滞在客が着実に伸びており、特に福岡間の送客サービスや市内周遊サービスを自ら実施してくださる民間事業者の取り組みも含めて過去最高の観光宿泊数を更新中です。



世界が注目した平戸城キャッスルステイ。一日限りの殿様・お姫様は滋賀県大津市の大学生カップルでした。

魅力があり楽しくチャンスに溢れている地域にこそ人は集まります。平戸がそうした舞台になりつつあることがこうした事例を通して実感できますし、平戸市全体として更なる高みを目指す原動力につながってきます。

数字が示す「活力溢れる平戸」

長崎県とともに進めてきました移住定住促進施策についても、平戸市は県内でもトップクラスに位置しています。平成28年度実績においては市外からの移住者が79人となり、平成29年度も昨年10月末時点で67人の方々がUIターンで平戸に移住しておられます。これといった大規模な企業がある訳でもないのに、これだけの方々が平戸に新たに住んでもらえることは徐々に地域の魅力が広がっているからだと確信しています。

そうした裏づけとして、基幹産業である農林水産業や観光業も徐々にではありますが、右肩上がりの逞しい実績を示しています。

例えば、平成22年度の農業販売額は約47億円から平成28年度には約58億円までに伸び、水産業においてもまき網を除く水揚げ金額は平成21年度には41億円まで落ち込みましたが、平成28年度には47億円まで回復することができています。もう一つの基幹産業である観光分野においても平成18年度の観光客数は約160万人だったのですが、平成27年度には178万人、本年度は180万人を突破しそうな勢いです。こうした地元産業の活性化により自主財源である市税収入も伸びを示しており、意欲ある担い手があらゆる分野で活躍してもらえる躍動感が伝わってきます。

一方で、長崎県内のほとんどの自治体がそうであるように、過疎化や少子高齢化は一向に緩むことなく将来不安として地域全体を

「平戸市未来創造羅針盤」を旗印に市民総力で躍動する平戸市づくり！

覆っています。このまま人口減少が進めば地域の活力が減退するばかりか、行財政を遂行する上でも交付税の削減など現実的な危機が否応なく襲い掛かってきます。



母子手帳に代わる子育てアプリを導入したのは九州初。家族の誰もが子どもの成長を見守ることができます。

「平戸市未来創造羅針盤」を策定

そこで現在、本年度末までに10年間を節目とする第二次平戸市総合計画を策定することとしています。これは平成30年度から向こう10年間のまちづくりの指針でもあり、そのタイトルは「平戸市未来創造羅針盤」と名付けられることとなっています。

まさに私たちの先祖が、海に囲まれた環境の中、海の恩恵を最大限に活かし、当時の日本を代表する海外貿易港としての役割を果たしながら、時代の先端を築いてきた歴史に示されるように、これからの不透明ともいえる未来を創造していくための「羅針盤」としてこの計画を市政施策の最上段に掲げ、市民の皆様とともに実践へつなげていくための設計図として活用したいと思います。

その中で第四章「未来への航海」がありますが、ここに挙げた5つの主要課題から浮か

び上がる理念こそが重要なので、以下順次ご紹介したいと思います。

理念1. 「未来の羅針盤となる人をつくる」

国内の総人口は減少傾向にあり、特に平戸市はその中で人口減少とともに高齢化も著しく進んでおり、生活機能を維持する観点からも、若い世代や働き盛り世代の流出を抑制していくことが強く求められています。

このような中、平戸市では平成19年に「生涯学習都市宣言」を行いました。10年の節目を契機に、さらに生涯学習によって培われた知識や能力を、地域文化の継承やまちづくり活動など様々な分野で発揮することができる、未来の地域を支える人づくりに取り組んでまいります。



市内9つの中学校でふれあい給食を毎年開催

これまで歴史や文化を継承し、そしてこれからも継承していく市民こそが平戸市の「宝」であることから、今後さらに生涯学習への取り組みを積極的に行うとともに、この故郷で生活してまちを築いていく人材の育成を進めてまいります。

理念2. 「まちの灯台を灯す絆を紡ぐ」

近年、刻々と時代が変化していくなかで、行政だけでは多様化する市民のニーズや地域課題に対応することが難しくなっています。その解決に向け、地域と行政が役割を分担しながら、地域の課題解決を図るまちづくりの必要性が高まっています。

地域コミュニティは、住民同士の絆を深め、人口流出の抑制、子育て支援、産業の振興などに重要な役割を担っていることから、一人でも多くの地域住民が地域コミュニティに関心をもち、自らの問題として考え行動することが大切です。地域コミュニティの自立においては、地域で暮らす住民のアイデアを活かしたコミュニティビジネスなど、地域で稼げる仕組みをつくり、自立した持続可能性の高いまちづくりを進めてまいります。



外国人観光客にも大人気の「漁師体験ツアー」

理念3. 「魅力を描いた帆をあげる」

平戸市は、美しく豊かな自然に囲まれており、海外交流などを示す歴史的史跡をはじめ数多くの文化財を有するなど魅力にあふれています。現在、訪日外国人観光客が初めて2千万人を超え、これに呼応するように平戸

市における外国人宿泊客数も平成21年度では5千人程度だったものが、平成28年度では約3倍の1万6千人を突破している状況にあります。

また環境政策においても、平戸市では平成26年に全国初の「CO₂排出ゼロ都市宣言」を行い、豊かな自然環境を保全しながら再生可能エネルギー供給基地として大きく貢献しています。

今後とも平戸市の持つ自然や文化財等の地域資源を最大限に活用し、その魅力と価値を高め、情報発信するとともに、観光を牽引力としての産業に育成し、多くの観光客が集う、交流と賑わいの拠点づくりに取り組んでまいります。

理念4. 「強く漕ぎだす産業をつくる」

近年、日本経済はますますグローバル化し、情報通信技術によるイノベーションの進展などにより、産業構造は大きく様変わりするとともに、刻々と変化する時代の潮流に的確に対応していくことが求められています。

いくら人が集まっても、そこに産業があり生活を支える基盤が存在しなければ永続的なものにはなりません。また人口減少という課題を解決に導く最終的な解答もこの「産業育成」に尽きるのではないのでしょうか。これまで継続されてきた基幹産業である農林水産業や観光業をさらなる価値をもって伸ばし、あるいは広げることによってこれまでにはなかった可能性を生み出すような仕組みづくりを実現してまいります。

理念5. 「自ら経営の舵を切る」

船はひとたび港を離れますと、自らの動力に加え風向きや潮流によって進んでいきますが、絶えずその方向性をチェックし気象条件や航路の確認をしていかなければ船は難破します。絶えず計画遂行に関して細心の注意を払いながら、しかるべき時に軌道修正を行うなど進捗管理や速度調整が必要です。

人口減少と地域経済の縮小からくる地域間格差の克服を是正するため、地方自治体自らが考え、責任を持って戦略を推進することが強く求められている中、平戸市も限られた財源と人材を有効に活用しながら、市民の自主性を活かすとともに、市民との協働と総意工夫によって特色ある地域経営を力強く進めてまいります。



世界遺産登録に向け意欲満々の春日集落の皆さん

第二次平戸市総合計画は、こうした五つの観点を主要課題として明記し、さらに市内共通の「みんなでやるばいプロジェクト」を市民と行政が一体となって取り組むとともに、その一方で、地域の特性や魅力をそれぞれ活かすために七つの「地域づくりプロジェクト」を定めています。これは離島や中山間など複雑で起伏に富む地形によって集落間の緊密な

連携が難しく、また長い歴史の中でそれぞれが有する生活様式や価値観などを画一化することの意味や手法が問われ続けていました。そこで、この際、地域の独自性と可能性を磨き上げ地域ごとのプロジェクトを並立して進めることによって、それらが相互に連携し前向きな競争に変わっていくことで、理想的な共生社会が描けるものと期待しています。

「平戸の強みをさらなる高みへ」

今回策定される第二次平戸市総合計画は、これまでありがちな行政主導の紋切り型の計画ではなく、中学生や高校生など若い世代の意見を盛り込むなど幅広いふるさとへの思いを集約し、読み物として市民の皆様の共感が得られる工夫をしました。そして、その方向性や指し示す未来創造図に賛同していただきながら魅力ある設計図に仕上がったものと確信しています。この「羅針盤」に則り、これまで以上に市民協働のまちづくりを進めることによって、数々の政策課題をクリアし、次代に誇れる平戸市建設に全身全霊を傾けてまいります。

県内経済の活力アップも、県民がそれぞれの地域の資源や魅力を再認識し、お互いが刺激し合い前向きな競争と共生を実現することから始まると思います。どうか、この『ながさき経済』を手にとった皆様におかれましては、平戸市に足を運んでその元気の発信源を実感していただき、アドバイスなどを賜りますようお願い申し上げます。